書字の発達的变化に関する考察

同一児童の経年的変化から

○本多ふく代（東北文化学園大学医療福祉学部）

Consideration concerning developed change of handwriting

Developmental change of the same child's aging

Fukuyo HONDA (Faculty of Medical & Welfare Department of Rehabilitation)

1. はじめに

書字は、人間にとって不可欠な能力である。そのため、子どもは誰に教わるでもなく4歳頃から書字を始め、5歳頃には多くが平仮名を書けるようになり、6歳で小学校に入学しそこで系統的に書写として書字の学習を行うようになる。小学校では、「(1) 姿勢や用具の持ち方を正しくして丁寧に書くこと、(2) 点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。」という小学校指導要領を基に教育がなされている。書写の教科書や多くの書字学習帳では、文字の筆順を空書し、次に手本をなぞり書きし、その後見本を見ながら書く視写という手順で学習を進めるようにしている。

これまで、書字能力の発達に関しては、同年齢多数児童の書字能力に関するものや、障害児童の書字能力変化に関するものが多く、健常児の経年的変化を追うものは少ない。また、学習形態との関係から考察した研究も見あたらない。今回、健常児童の書字の変化を経年的に追うことが出来た。また、なぞりと視写の違いとその発達的变化について調べた。その結果、興味ある知見が得られたので報告する。

2. 実験方法

- 1) 被験者：現在普通小学校4年生児童をランダムに選択した。視力障害はなく、特に知能・運動の発達に遅れは認めない者とした。
- 2) 観察期間：小学1年生から小学3年生までの3年間とした。
- 3) 方法：国語の授業におけるノート（正方形の升目）に書かれた文字を任意に抽出し、なぞりの文字については、モデルの文字からのずれを測定し、視写につい

ては文字の傾き、文字のゆがみ（縦横比）、定められた位置からのずれを測定する。1年生、2年生、3年生時のものを測定し、それぞれを比較し、その変化をみる。

3. 結果

代表として被験者A（6歳5ヶ月から9歳4ヶ月）の「る」の文字について、1年次の例を図1に示す。文字のなぞりと視写の見本からのずれの変化を図2に示す。なぞりについては、1年の最初のみに見られるものの、時間の経過に伴い、ほとんど見られなくなっていた。視写については、ずれは学年が進んでも見られるものの、時間の経過に伴い少なくなっていた。

視写の文字の変化については、図3に傾きを、図4に文字のゆがみを示す。いずれの結果も学年が進むにつれて値は小さくなり、見本に近い文字の形体を示すようになっていた。ゆがみとした縦横比に関しては、縦の長さは変化しないものの、横の幅が狭くなり、見本となる文字の形体に近づいてきていた。

4. 考察

今回の結果から、学年が進むにつれ、ずれがなくなり、形のばらつきが少なくなることがわかった。このことは、巧緻性が増すという発達の原則に従う結果となった。塩坪ら¹⁾は、書字能力の発達には、記入数（書字速度）の増加と状況に応じて速さを優先させるかきちんと書くことを優先させるかという戦略を変え能力の獲得の方向性があり、1年生、3年生においてはきちんと書くという戦略しかないことを明らかにしている。今回の結果は、このようなストラテジーしか持たない学年の子が書いたものであり、

その書字能力を反映しているものと思われる。

小森²⁾は、視写は運動的側面のみで成立するのではなく、視覚的な構成を伴う側面が関係していることを明らかにしている。今回の結果は、書字という巧緻運動の発達だけではなく、構成能力や視覚認知の発達を反映していると考えられる。しかし、図に示した平仮名程度の単純な形体においてもモデルと一致してはいなかった。このことから、書字の学習においては、なぞり書きや空書での学習で、書き順やつくりを正しく書くことが求められるが、見本に沿った正しい文字を書くためには、形を正しく認識することを強化する学習も必要になるのではないかと思われた。

5. おわりに

今回、健常児童を対象に同一児童の経年的に書字の変化を調べた。その結果なぞりにおいては手本とのずれがなくなり、視写においては、形のゆがみなどが小さくなるという発達の原則に従う結果が得られた。本研究より、書字の学習においては、形の認知に目を向けた学習の必要性が示唆された。

(左：視写、右：なぞり)

図1 なぞりと視写の例（1年生）

図2 なぞりと視写における見本とのずれ

図3 視写における文字の傾き

図4 視写における文字のゆがみ

参考文献

- 1) 塩坪いく子、中山温子、池悦子ら：文字の大きさにみる小学生の書字技能、日本教育心理学会総会発表論文集, vol.41, p109, 1999.
- 2) 小森伸子：読字・構成・運動の視点から見た幼児の書字活動日本教育心理学会総会発表論文集, vol.41,p553, 1999.

本多ふく代 仙台市青葉区国見6-45-1
東北文化学園大学医療福祉学部
リハビリテーション学科